

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜山中学校】

| ⑥ 次年度への課題と改善策 | |
|---------------|---|
| 知識・技能 | さいたま市学習状況調査の結果から、全体的には、国語・数学ともに基礎的・基本的な「知識・技能」の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから、個別に必要な支援を講じていく必要がある。スタディサプリやミライシード等のICT活用によって、個別最適な学びを充実させるとともに、休業明けテスト等を活用したスモールステップの取組を充実させることで、基礎学力向上を目指していく。 |
| 思考・判断・表現 | さいたま市学習状況調査の結果から、国語は「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の領域において、数学は「図形」や「関数」の領域において、「思考・判断・表現」の定着に課題がみられた。授業のUD化を、教科を超えて全校で丁寧に実践するとともに、全市平均よりも活用率の高いタブレットPCをさらに有効活用し、「学び合い」の場や「振り返り」の場を充実させることで、校内平均正答率の向上を目指していく。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | さいたま市学習状況調査の結果から、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」や「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目において、3年生になると高校受験など進路を意識することから、2年生のときよりも肯定的な回答の割合が高かった。3年間を通して進路指導・キャリア教育を計画的・継続的に充実させることで、夢や希望をもち、目的意識をもって主体的に学ぶ態度の育成を目指していく。 |

| ① 目標・策 | | |
|---------------|---|--|
| | 目標 | 策 |
| 知識・技能 | ・校内キャリアアップテスト3級合格90%以上、1級合格60%以上 ・全国学力・学習状況調査における「知識・技能」にかかる校内平均正答率2pt向上 | ⇒ ・放課後学習会の実施 ・スタディサプリ、ドリルパークの活用推進 ・休業明け課題テストの実施 |
| 思考・判断・表現 | ・全国学力・学習状況調査における「思考・判断・表現」にかかる校内平均正答率2pt向上 | ⇒ ・UDの視点(焦点化、構造化、情報提示の工夫、学び合い)を取り入れた授業の推進 ・タブレット端末活用で自他の意見を発信・共有する「学び合い」を全教科で実施 ・授業終了の「振り返りの時間」実施 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・1P学習ノート、スタサブ等デジタル学習課題への提出率・アクセス率3%向上 ・放課後学習ルーム利用率20%達成 | ⇒ ・1P学習ノート(毎日点検)による主体的な家庭学習時間の確保 ・校内キャリアアップテスト(5教科、各1～3級)の実施 |

| ⑤ 目標・策の達成状況 | | 評価(※) |
|---------------|--|-------|
| 知識・技能 | R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」の平均正答率は、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して、中1が+21pt、+5pt、中2が+8pt、+7ptであった。スタディサプリやミライシード等のICT活用や、休業明け課題テストの実施が定着しており、今後も継続していく。 | A |
| 思考・判断・表現 | R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」の平均正答率は、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して、中1が+22pt、-10pt、中2が-7pt、+2ptであった。授業や環境のUD化、タブレット端末活用による「学び合い」、授業終了の「振り返り」実施が定着しており、今後も継続していく。 | B |
| 主体的に学習に取り組む態度 | R5さいたま市学習状況調査の「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答が全校で54%であり、1P学習ノートの提出状況などからも放課後における学習習慣の定着に課題がみられる。 | C |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

| ② 全国学力・学習状況調査結果・分析 | |
|--------------------|---|
| 知識・技能 | R5年度の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語±0pt、数学-8ptであった。国語は「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国を上回ったが、特に古典に課題が見られた。数学と英語は、全国と比較し、どの領域にも課題が見られた。 |
| 思考・判断・表現 | R5年度の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+3pt、数学-4ptであった。また国語の「書くこと」、数学の「データの活用」の記述式の無回答率が高かった。英語は「聞くこと」「書くこと」などに課題が見られた。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | R5年度の「生徒質問紙」回答では、タブレットPCを活用した自主学習や意見交流等に意欲的な回答が多かった。また話し合い活動など学び合いの活動に積極的な回答も多く見られた。 |

- 調査結果分析(7～8月)
- ①結果分析(管理職・学年主任等)
 - ②詳細分析(学年・教科担当)
 - ③分析共有(児童生徒の実態把握)

| ④ さいたま市学習状況調査結果・分析 | |
|----------------------------------|---|
| ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。 | |
| 中1 | 「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語+21pt、数学+5ptであった。「思考・判断・表現」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語+22pt、数学-10ptであった。国語は全ての領域において1～35ptの改善、数学は「数と式」の領域において7ptの改善がみられた。また数学は「図形」や「関数」の領域に課題がみられるが、無回答率は高くないため、主体的に取り組む態度を大切にしながら、基礎基本の定着を目指した授業改善に取り組んでいく。 |
| 中2 | 「知識・技能」において、R4年度調査より国語+8pt、数学+7ptであった。「思考・判断・表現」において、R4年度調査より国語-7pt、数学+2ptであった。国語は「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」の領域において1～6ptの改善、数学は全ての領域において1～9ptの改善がみられた。また国語は「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の領域に課題がみられるが、無回答率は高くないため、主体的に取り組む態度を大切にしながら、基礎基本の定着を目指した授業改善に取り組んでいく。 |
| 中3 | 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は91%であり、2年生のときよりも3ポイント以上高い結果であった。また「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が、2年生のときよりも8ポイント以上高い結果であった。主体的に学習に取り組む様子がみられるようになった。 |

| ③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後) | | |
|----------------------------|--|---|
| | 目標 | 策 |
| 知識・技能 | ・さいたま市学習状況調査における「知識・技能」にかかる校内平均正答率2pt向上 | ⇒ ・放課後学習会の実施 ・スタディサプリ、ドリルパークの活用推進 ・休業明け課題テスト(振り返りを含む)の実施 |
| 思考・判断・表現 | ・さいたま市学習状況調査における「思考・判断・表現」にかかる校内平均正答率2pt向上 | ⇒ ・UDの視点(焦点化、構造化、情報提示の工夫、学び合い)を取り入れた授業の充実 ・タブレット端末活用で自他の意見を発信・共有する「学び合い」実施の全教科での充実 ・授業終了の「振り返りの時間」実施 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 変更なし | ⇒ 変更なし |

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜山中学校】

| | | |
|----------|--|--|
| ⑥ | 次年度への課題と授業改善策 | |
| 知識・技能 | 今年度は指導と評価の一体化を研修の中心に据えて生徒たちの学習意欲の向上を図るように努力した。その中で、生徒たちがテストに向けて、効率よく学習する要領を覚え、校内での学習意欲を向上させることはできた。全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかしながら、家庭での学習に関しては未だ課題がある。依然として低い数値であることが市のアンケートからも読み取ることができる。しかし、個人的に大きく支援が必要な生徒も多く、特別支援の研修を行い、個別最適化とユニバーサルな視点を踏まえた授業改善に取り組みたい。 | |
| 思考・判断・表現 | 今年度はICTの活用が進み、生徒が情報を集めやすくなり、自分の考えを表現する際もそれぞれの集めた情報を基に自分の考えを表現できる生徒が増えた。しかし、発表の機会を十分に設定することができなかった。来年度は、すべての教育活動を通してより発表や体験活動を取り入れた授業改善に取り組みたい。 | |

| | | |
|----------|--|--|
| ① | 今年度の課題と授業改善策 | |
| | 学習上・指導上の課題 | 授業改善策【評価方法】 |
| 知識・技能 | <学習上の課題> 知識の活用に課題が見られる。<指導上の課題> 知識の選択の場面設定に課題があると考えられる。 | ⇒ ・各教科小テスト等の実施 ・校内研修で教職員の指導と評価の一体化の推進 ・評価活動の充実 |
| 思考・判断・表現 | <学習上の課題> 考えをまとめたり表現することに課題が見られる。<指導上の課題> 授業ではそうした場面が設定されているので、今後の変容に期待したい。 | ⇒ ・発表を取り入れた授業の推進 ・タブレット端末活用で自他の意見を発信・共有する「学び合い」を全教科で実施 ・授業の「フィードバック」の実施(振り返りや相互評価等) |

| | | |
|----------|-------|--|
| ⑤ | 評価(※) | 調査結果 授業改善策の達成状況 |
| 知識・技能 | A | 「指導と評価の一体化」の取り組みの一環として3つの取り組みを行った。中でもテスト前にテスト対策の授業をすべての教科で行うことでテスト前に学習の目標が明確になり、R6年度さいたま市学習状況調査の質問事項「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」では、市の肯定的な解答の数値を上回った。自主的に学習に取り組めたことにより、市学習状況調査では、すべての教科で市平均との比較から向上が見られた。 |
| 思考・判断・表現 | A | 効率的にICTを活用して、生徒に話し合い活動や、発表を行うことができている先生の授業を校内研修で共有した。その結果、R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が市の平均よりもすべての学年において上回っている。このような授業改善を通して、生徒が自主的に学習に取り組めたことにより、市学習状況調査では、すべての教科で市平均との比較から向上が見られる。 |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

| | | |
|----------|---|--|
| ② | 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察) | |
| 知識・技能 | 国語の「言葉の使い方や使い方に関する事項」において、特に「表現の技法について理解しているかどうかみる」問題に課題がみられた。表現の技法について理解しているかという出題の趣旨の問題で全国平均と20%以上の差があった。数学の「数と式」の領域において課題が見られた。等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみるという出題の趣旨の問題で全国平均と15%以上の差があった。自分の知識を目的に応じて変形させるという点に課題がある。 | |
| 思考・判断・表現 | 国語では、自分の考えを伝える問題や、内容を要約する問題で、全国平均と10%~15%の差が見られた。数学では数学的な表現を用いて説明する問題と筋道を立てて証明する問題で全国平均と15%の差が見られた。自分の考えを伝えることが苦手という点においては本校の家庭環境の状況を考えるとこの点の弱さは非常に分かりやすい結果が出ていると思う。 | |

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(学年・教科担当)

| | | |
|----------|--|--|
| ④ | さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察) | |
| 知識・技能 | 数学においては知識技能の数値の方が思考判断表現よりも高いのに反して、国語においてはその逆の結果になっている。このことから本校では言語的な知識技能が劣っていることが読み取れる。生徒を取り巻く環境にかかわらず、学校でのコミュニケーションを通じて、言語的な知識の向上に努めたい。 | |
| 思考・判断・表現 | 国語の自分の考えを記述する問題で市の正答率と比較するとそのさらに半分程度の正答率であった。考えを述べる内容の問題では同じような傾向がその他の教科でも見ることが出来る。教科、領域における授業で、話し合いを通じて考えを深めたり、発表を通じて思考力をさらに身につけさせたい。 | |

| | | | |
|----------|-------|--|---|
| ③ | 評価(※) | 中間期報告 授業改善策の達成状況 | 中間期見直し 授業改善策【評価方法】 |
| | 知識・技能 | B | 年度当初、学習の取り組みで小テストをコンスタントに実施する計画を立て、教科によっては積極的に取り組む姿勢を引き出せるものもあったが浸透しなかった教科もあった。6月に講師を招聘し、評価に関する研修を実施し、指導訪問において各教科で実践の改善策を話し合った。 |
| 思考・判断・表現 | B | 全国学テでは、知識を運用する場面設定において課題が見られた。各学年とも総合的な学習や特別活動においてそれぞれの発表場面を設け、教科でも知識を運用して発表する取り組みを実施しているため、それらの効果を期待したい。夏休みの研修において、タブレット端末の活用や効率の良い授業の「フィードバック」方法に関して研修で共有した。 | ・各教科小テスト等の実施方法の共有、改善 ・校内研修で教職員の指導と評価の一体化の共有、改善 ・評価活動の研修と見直し ・発表を取り入れた授業の共有、改善、見直し ・タブレット端末活用方法の上手な先生による校内研修を実施した。 ・授業の「フィードバック」方法の共有 |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)